

児童館実習における学びの特徴に関する考察 — 保育所実習との比較から —

A Study on the Characteristics of Learning at Exercises in Children's Play Centers Compared with Nursery Schools

(2018年3月31日受理)

榎尾 真佐枝

Masae Makio

Key words : 児童館実習, 保育所実習, 学びの特徴, 児童厚生員, 保育専門職

要 旨

本稿は、本学子ども学科で実施している児童館実習に参加した学生がどのような学びを得ているのかを保育所実習で得た学びと比較しながら、その特徴を明らかにすることを目的とした。さらにその学びが保育専門職としてどのように活かされていくのか、その可能性についても探求した。実際に児童館実習に参加した学生に質問紙調査を実施したところ、前半実習では「保護者との関わり方」「子ども(0～18歳)との関わり方」、後半実習では「活動(イベント)の進め方」「活動(イベント)のプログラム立案の方法」など、保育所実習とは違う学びが得られていることが明らかとなった。また、それらの学びは、保育専門職として身につけておきたい重要なスキルに繋がっていることも見えてきた。

1. 問題の所在

児童の健全育成の理念を担う児童厚生施設の1つに「児童館」がある。児童福祉法第40条において、児童館は「児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする施設である」と規定されており、現在、その数は、全国に4,318カ所所在となっている(厚生労働省調べ, 2011)。児童館が対象とする「児童」とは、0歳から18歳未満の者であり、乳幼児は、保護者とともに利用することが一般的である。小学生以上は自由に利用することができ、友達と一緒に来館する者もいれば、1人でふらっと立ち寄る者もいる。また、学校のある時間(主に平日の午前中)には、未就学児の親子が遊べる活動を実施したり、地域の方々(大人)向けの活動を実施したりしている児童館も多い。このように、児童館には、不特定多数の大変幅広い年齢層の子どもや大人たちが出入りをしている。

依田(2009)は、児童館の機能について「子どもへの

直接的な指導・援助を行う『子ども育成機能』、子どもの親等に対する『子育て支援機能』、そして、子どもが育成される地域全体を念頭においた『地域活動促進機能』に大別することができる」と述べている。この3つの機能を果たすべく、実際に児童館が実施している活動の具体的内容は表1に示すとおりである。

これらのことより、児童館は、子ども、親(保護者)、地域にとってなくてはならない施設であり、その果たす役割は大変重要である。

表1 児童館の活動内容について

	児童館の活動内容	割合(%)
1	遊びによる子どもの育成	95.9
2	子どもの居場所の提供	94
3	保護者の子育て支援	84.9
4	地域の健全育成の環境作り	61.3
5	放課後児童クラブ	54
6	配慮を必要とする子どもへの対応	45.8

(全国児童館実態調査, 2011)

この幅広い活動と役割を担っている児童館に勤務する職員については、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第38条（一部抜粋）において、児童厚生施設には「児童の遊びを指導する者を置かなければならない」と定められており、さらに「児童の遊びを指導する者は、次に示すいずれかの資格を有する者であること。保育士資格、社会福祉士資格、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・中等教育学校の教諭となる資格」と明記されている（その他の条件については省略する）。これらのことより、児童館職員（以下、児童厚生員と表記する。）に求められる専門性は大変幅広いと言える。

ここで、児童館で実施される実習に着目したい。児童館は、保育士養成課程に体系化されている保育実習Ⅲの対象施設であり、保育実習Ⅱと並列科目としての選択必修科目の位置づけにある。保育実習Ⅲにおいて学生が学ぶ事項として、保育所以外の児童福祉施設の役割や機能についての理解を深めるとともに、保育実習Ⅰ・Ⅱよりさらに深化して家庭・地域社会との連携の方法を学び、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことが求められている。

本学子ども学科における児童館実習は「児童厚生一級指導員資格」（児童健全育成推進財団認定）を取得するための実習と位置づけ、児童館実習10日間、保育実習Ⅲ10日間、合計20日間の児童館実習（前半・後半）を実施している。その開講時期（実施時期）については、表2に示すとおりである。

森（2011）は、保育実習Ⅲとして位置づけられている児童館実習の学びを「保育専門職としての意識を高める学びである」ことを、実習に参加した学生からの質問紙調査により明らかとしている。しかしながら、保育所実習の学びとの違いについては具体的に示されていない。

2. 研究目的

そこで本研究では、本学子ども学科で実施している児童館実習（前半・後半）に参加した学生の学びについて、保育所実習の学びと比較しながらその特徴を明らかにすることを目的とする。さらに、児童厚生員としての学びが、保育専門職として将来どのように活かされていくかの可能性についても探究する。

3. 研究方法

（1）質問紙調査法

①調査対象者

平成26年度、27年度、28年度に実施した児童館実習（児童館実習前半）および、保育実習Ⅲ（児童館実習後半）に参加した22名の学生を対象とした。

②調査実施日

平成30年2月16日、2月26日の2日間を設定した。

③手続き

対象学生に事前に電話で調査協力を依頼した。実施日当日に質問紙を配付し、即日回答してもらい、回収した。

④質問項目

「児童館実習前半」「児童館実習後半」「保育所実習」それぞれについて、実習における満足度や学びの内容についての質問項目を設定した。

- i) 楽しかったですか（四肢択一）
- ii) 勉強になりましたか（四肢択一）、その理由（自由記述）
- iii) 実習中に関わった子どもや大人について（十一肢複

表2 実習実施時期について

	2年前期	2年後期	2年後期	3年前期	3年後期
平成26, 27年度	保育所実習 (保育実習Ⅰ・Ⅱ) 10日間・10日間	施設実習 (保育実習Ⅰ) 10日間		児童館実習前半 (児童館実習) 10日間	児童館実習後半 (保育実習Ⅲ) 10日間
平成28年度	保育所実習 (保育実習Ⅰ・Ⅱ) 10日間・10日間	施設実習 (保育実習Ⅰ) 10日間	児童館実習前半 (児童館実習) 10日間	児童館実習後半 (保育実習Ⅲ) 10日間	

数回答可)

iv) 子どもや大人との関わりから学んだこと(自由記述)

(2) 分析方法

四肢択一項目、および十一肢複数回答可項目においては、その回答結果の割合をグラフにまとめる。また、自由記述項目においては、頻出度の高い文言を抽出した後、カテゴリー化して、3つの実習ごとにまとめる。

4. 研究結果

(1) 対象者について

本学子ども学科に所属し、児童館実習(前半・後半)に参加した学生22名を対象とし、全員から回答を得ることができた。その内訳は表3の通りである。

表3 回答者の内訳

調査実施日	回答者数
平成30年2月16日実施	4年生7名・院生1名
平成30年2月26日実施	3年生14名

(2) 質問紙調査の回答結果について

「実習が楽しかったか」の問いに対する3つの実習の回答結果を比較してみると(図1参照)、「大変楽しかった」「楽しかった」と回答した学生が、児童館実習前半では約82%、児童館実習後半では約91%を占めていた。児童館実習に対する満足度は大変高かった。一方、保育所実習の満足度は、60%に留まり、実習を「楽しい」と感じる学生の割合は児童館実習に比べて低かった。このことより、2年前期で参加する保育所実習は大学入学後初めての实習であるためか、「楽しい」と感じる余裕がもてないことがわかった。

続いて「実習は勉強になったか」の問いに対しては、3つすべての実習において、ほぼ全員が「大変勉強になった」「勉強になった」と回答した(図2参照)。

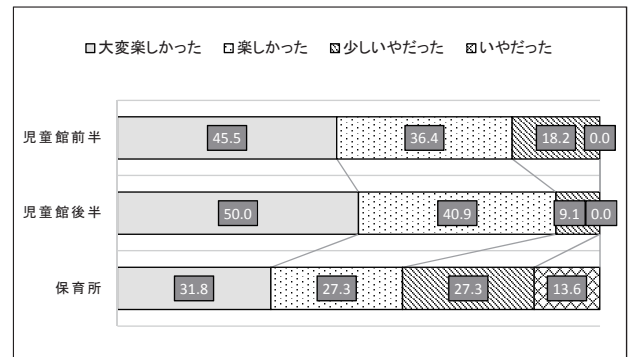


図1 「実習は楽しかったか」の回答結果

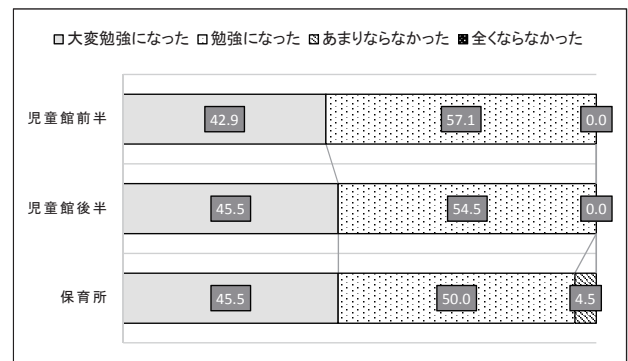


図2 「実習は勉強になったか」の回答結果

続いて、「実習の際に関わった子どもや大人について」の問いに対しての回答結果は、図3, 4, 5に示すとおりである。児童館実習前半では「幼児(2~5歳児)」と回答した人が21人と最も多く、次いで「小学校低学年」(19人)、「小学校高学年」(18人)、「保護者」(17人)と続いていた。また「乳児(0~1歳児)」「中学生」「高校生」「高齢者」などとの関わりもあり、子どもから大人まで、大変幅広い年齢層の人たちと関わっていることがわかった。児童館実習後半では、やはり「幼児(2~5歳児)」が22人と最も多く、次いで「小学校低学年」(19人)、「小学校高学年」(17人)、「保護者」(17人)、と続いており、ほぼ前半と同じ結果となった。さらに「乳児(0~1歳児)」「中学生」「地域の人」と関わったと回答した学生が前半より増えていたとともに、前半はなかった「大学生」「その他(エアロビなどの講師)」という回答も見られ、前半と比べて、より様々な子どもや大人と関わっていることがわかった。一方、保育所実習においては「幼児(2~5歳児)」が20人と最も多く、次いで「乳児(0~1歳児)」(15人)、「保護者」(10人)と続いていた。それ

以外の子どもや大人との関わりはほとんどなく、児童館実習との違いは歴然としていた。

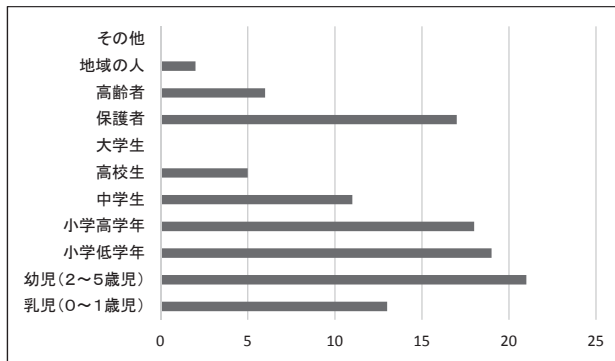


図3 児童館実習前半で関わった子どもや大人の内訳

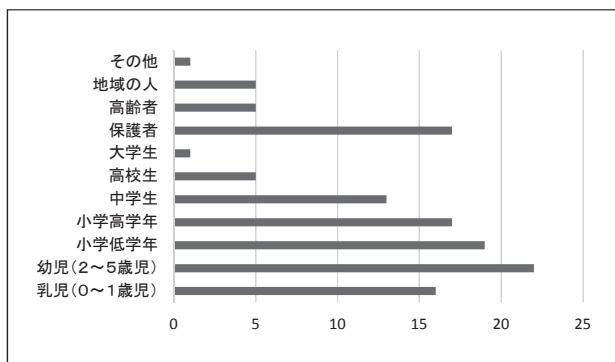


図4 児童館実習後半で関わった子どもや大人の内訳

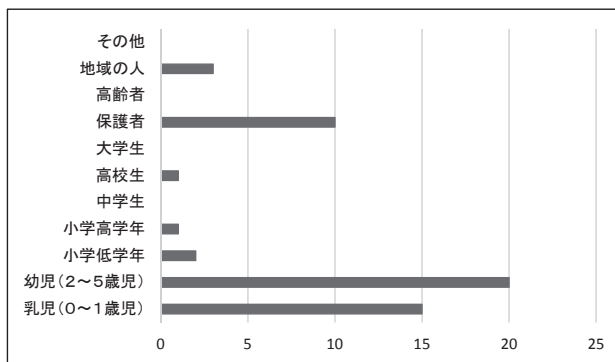


図5 保育所実習で関わった子どもや大人の内訳

次に「最も勉強になったことは何ですか」の問いに対する自由記述の回答より、頻出回数の多い文言を抽出し、カテゴリ化した結果が表4, 5, 6である。この3つの表を比較すると、3つの実習の学びの特徴の違いが顕著に表れた。児童館実習前半では「保護者の関わり方」が最も多く、次いで「子ども（0～18歳）との関わり方」と続いている。児童館実習後半では「活動（イベント）の

進め方」が最も多く、次いで「保護者との関わり方」「子ども（0～18歳）との関わり方」「活動（イベント）のプログラム立案の方法」と続いている。一方、保育所実習では「乳幼児の発達段階」が最も多く、次いで「乳幼児との関わり方」「保育所の概要・役割」「保育士の仕事・役割」「職員との連携」と続いている。

表4 児童館実習前半で学んだこと

	カテゴリ	頻出回数
1	保護者との関わり方	7
2	子ども（0～18歳）との関わり方	4
3	環境整備・環境構成の重要性	4
4	児童館の概要・役割	3
5	児童厚生員の仕事・役割	3
6	異年齢交流・遊び	3

表5 児童館実習後半で学んだこと

	カテゴリ	頻出回数
1	活動（イベント）の進め方	7
2	保護者との関わり方	6
3	子ども（0～18歳）との関わり方	5
4	活動(イベント)のプログラム立案の方法	5
5	活動(イベント)準備の方法・作業効率	4
6	異年齢交流・遊び	3

表6 保育所実習で学んだこと

	カテゴリ	頻出回数
1	乳幼児の発達段階	6
2	乳幼児との関わり方	4
3	保育所の概要・役割	3
4	保育士の仕事・役割	3
5	職員との連携	3

5. 考 察

本研究において、本学子ども学科学生の児童館実習(前半・後半)における学びの特徴が明らかとなった。また、その学びは保育所実習とは異なるという結果も得られた。その具体的な内容について、各実習ごとのエピソード(自由記述より)の内容を踏まえながら考察する。

<□内は自由記述からの抜粋>

(1) 児童館実習前半の学びの特徴

①「保護者との関わり方」について

- ・子どもだけではなく、職員は、大人の方へも支援をしていた。(保護者の方の話を聞いていた。)
- ・(前略) 最初は、親子とどのように関わってよいか分からず、先生たちが関わる姿を見て、自分もそのようにしてみた。すると、保護者と話すことができた。
- ・保護者としっかり関わったことは初めてだった。
- ・子育て支援の場に参加している親子に話しかけると、気さくに答えてくださった。

実習前半は主に観察実習が多く、気持ちはあってもなかなか保護者と話をするきっかけがつかめず、実習生にはハードルが高い課題である。しかし、児童厚生員の真似をしながら実際に保護者に話しかけると、保護者の方から積極的な反応が返ってくることにより、実習生は自信が付き、保護者への関わり方も自然と学べる貴重な環境下にあると言える。

- ・(前略) 保護者が双子を連れて参加していた。その保護者の方より「双子を連れていくと行動が大変なことが多いけど、ここなら安心して連れてこれる」という言葉を聞くことができた。児童館が親子にとって大切な場であることを知った。
- ・児童館が子育て支援において重要な役割であることを知った。

また、保護者との会話より児童館の子育て支援機能の実際を学ぶ機会を得ていたようだ。保育所実習では学ぶことが難しい場面であり、児童館実習ならではの学びと言える。

②「子ども(0～18歳)の子どもとの関わり方」について

- ・(9～10歳・男児・3～4人) ルールを守って遊べない小学生男児グループに対して、安全面を確保するために、先生は厳しく注意していた。その後、男子達は納得し、ルールを守って遊んでいた。

- ・(12歳・男児) どのくらい距離をとって関わればいいのか分からなかった。少し困ったが、約束したことなどは、必ず実行しないといけないということを教えていただいた。

児童館では、乳幼児と関わることも多いが、やはり、小学生と関わることで貴重な学びを得ていると言える。年齢に応じた関わり方や指導方法、個別指導などについて、場面を捉えて学ぶことができていると考えられる。これらのことより、保育所実習でしっかり身につけた乳幼児の発達に加えて、児童館実習では、学童期、中高生の発達段階も踏まえることができる実習であると言える。

- ・(14歳・女兒) 家庭での居場所があまりない中学生の女兒がよく来館していた。その女の子に対して、職員の方は一緒に話をしたり、温かく迎え入れることで児童館がその女の子の居場所になっていた。
- ・(11歳・女兒) 学校に行って友達と関わるよりも児童館で先生と関わる方が楽しいと言っていた。職員の方はずっとその子に関わるのではなく、少し引いて見守ることもあった。気持ちが楽になるように考えて関わっておられた。

学校や家庭に居場所がない小中学生に対して、児童厚生員の対応や関わり方を観察することにより、児童館がその子ども達の居場所となり得ていることがわかる。小中学生に対する対応方法ももちろんのことながら、児童館の果たす役割、機能についても場面を捉えてしっかり学ぶことができていると言える。このことは、子ども自身の家庭環境や背景を知ること、その子どもの理解に繋げていく専門的な考え方であり、保育専門職にとってなくてはならない視点であると言える。

(2) 児童館実習後半の学びの特徴

①「活動(イベント)の進め方」について

- ・実践実習から、活動の進め方や環境構成・援助のポイントを学ぶことができた。
- ・自分でイベントを企画し、実行したことが大きな学びとなった。

- ・幼児と保護者に向けての活動の組み立て方、関わり方、絵本の読み聞かせ方、ふれあい遊びの方法など。
- ・子育て支援の活動を計画させてもらい、保育所実習とは違った子どもと保護者への配慮を学ぶことができた。

②活動（イベント）準備の方法・作業効率について

- ・「ピコピコカプセル流し」という遊びを見て、身の回りの物がおもちゃになる楽しさを知った。
- ・活動を行う時は、余裕を持って、しっかり準備をする。全体をしっかり観察し、状況把握を行う。
- ・実際にクラブ活動の主をすることで、全体把握の大変さや、見通しを持つことの大変さを学ぶことができた。さらに、クラブ活動の準備も一から行ったことでいかに効率よく準備することが大切かも学んだ。
- ・環境構成や視覚聴覚にどう訴えるかについて学んだ。

児童館実習後半では、イベントなどの活動の立案後、実際に親子の前や小学生の前に立ち、イベントなどを実施する「実践実習」を行うことが多い。保育所実習でも「設定保育」として子どもの前で実施する機会はあるのだが、「保育所実習で学んだこと」の項目には出てこない（表6参照）。常時幼児がいる保育所実習とは違う環境下で実施する児童館実習のイベントでは、活動の立案に時間をかけることができ、さらに児童厚生員という「児童の遊びを指導する者」としての立場より、保育所とは違う視点で活動の立案、実施ができるため、深い学びに繋がっているのではないかと考えられる。

また、活動の準備についても同じ事が言える。活動をよりよいものにするために、「状況把握」「見通し」「作業効率」など保育専門職が身につけておきたいスキルが児童館実習後半でしっかり学ぶことができていたことは特筆すべき点であり、児童館実習を経験する大きなメリットと言えるであろう。

(3) 児童館実習全体を通しての学びの特徴

- ・0～18歳までの子どもだけと関わるのではなく、乳児の保護者や地域の方々とも関わることができる施設。
- ・小学生が学校に行っている時間、高齢者対象の卓球の時間がある。あるおばあちゃんが、自分の子どもとその子ども（孫）と一緒に来ていて、三世代で遊んでいた。とてもいいなと思った。

様々な年齢層の子どもや大人と関わることで、児童館が果たす役割について学ぶことができています。このことは、子どもを取り巻く背景、家庭や地域に目を向けることに繋がり、視野の広い保育専門職を育成することに繋がると考えられる。

- ・(10歳・男児) 発達障害のある男児が地域の方とトラブルになり、児童館職員だけではどうにもならず、男児の通う小学校の教員に来館してもらうことがあった。児童館と小学校の連携を行っているところを実際に自分の目で見て学ぶことができた。
- ・(3歳・男児と保護者、職員) 発達障害の診断を受けた男児。その保護者は家庭では男児が何をするか分からず、不安なため、児童館へ来館していた。職員は、男児の行動に対して、認める声かけをし、保護者に寄り添っていた。

児童館の活動の中に（表1参照）「配慮を必要とする子どもへの対応」という項目がある。児童館は、「誰が、いつ来てもよい」唯一の児童福祉施設である。そのため、このように発達障害のある子どもへの配慮、また、保護者への寄り添い等も重要な職務内容であり、学びの深さに繋がっていると言える。また、児童館は職員数が少なく、児童館だけでは解決できない問題も多く、他機関との連携が欠かせない。このことは、児童館実習中に学べる大きな特徴と言えるであろう。

- ・(10歳・女児) 児童館実習前半で関わったことを覚えてくれていた。
- ・(小学生多数) 後半実習のため、久しぶりに児童館に行ったとき、小学生がわざわざ出迎えてくれた。前半で約束をしていた「やりたいイベント」を考え

てきてくれた。

児童館実習は前半を実施した後、後半は半年後に実施することになる。その間、子どもも実習生もお互いのことを覚えていて、再会したときには感動することも多い。それ故に「楽しい」と感じる学生が多いのではないかと考えられる。このことは、子どもとの繋がり、信頼関係構築、さらに子どもの成長を目の当たりにすることであり、保育専門職に就くにあたっての大変大きな喜び、やりがいの要素となっている。児童館実習においてこの経験ができることは、大変貴重であると言える。

6. ま と め

保育所実習で「いやだった」「つらかった」と感じていた学生が、児童館実習を経験することにより、「子どもと関わることが楽しい」「子どもがかわいい」という感情が再び芽生え、「保育専門職に就きたい」と考え直す場面が今までも多々見られたが、本研究によってその要素が明らかとなった。また、今後は、実際に保育現場に就職している卒業生たちが、児童館実習の学びをどのように活かしているのかを調査し、その具体的な内容を把握するとともに、今後の児童館実習研究の授業に反映していきたい。

引用・参考文献

- 保育福祉小六法編集委員会（編）（2018）『保育福祉小六法』みらい
- 一般財団法人 児童健全育成推進財団（2015）『児童館論』厚生労働省「児童館について」（2011年10月1日現在）
 (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/jidoukan.html> 2018年3月24日閲覧)
- 牧里毎治・山野則子（編著）・依田秀任（2009）『児童福祉の地域ネットワーク』p. 49, p. 51, 相川書房
- 森知子（2011）「保育専門職としての意識を高める児童館実習の学び ―保育士養成課程における保育実習Ⅲの位置づけから―」『聖和論集』第39号, p. 27-34
- 大和田明見・関根美保子・鈴木春江（2014）「保育士養成課程における施設実習の意味と意識の変化」『帝

拳を宇内学教育学部紀要2』p. 275-284

「全国児童館実態調査」報告（コドモネクスト）（2011）
 (http://kodomo-next.jp/pdf_files/research11report.pdf 2018年3月24日閲覧)

